

2023年度 事業計画

(自 2023年1月1日 ～ 至 2023年12月31日)

一般社団法人日本医療薬学会

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当学会においてもWEBを活用した年会・研修会等が開催されるなど活動形態に変化が生じたが、年会や研修会には従前に比して、より多くの参加が見られた。

2023年度は、持続可能な活動のあり方を検討し、WEBと対面式等を活用し、活発にディスカッション・コミュニケーションができる場を提供するなどの支援を通じ、学術活動をより活性化する。本学会は、毎年、会員数が増加しており、特に地域薬学ケア専門薬剤師制度は、この数年の薬局所属入会者数の増加に影響した。フレッシュャーズ・カンファランス等の充実化を図り、薬学生の学術活動支援を継続するとともに、製薬企業・関連学会等との連携を図り、多様な学術活動を推進する。

第33回年会は、東日本大震災から12年を経過した仙台市で開催することとし、未来に向けたメッセージの発信や議論が企画されている。引き続き、各学会活動の深化・発展、見直しを図り、医療薬学の進展と学術活動を通じた社会貢献に努めるとともに会員サービスのさらなる向上と充実を目指す。

1. 年会開催

第33回日本医療薬学会年会

年会長 三浦 昌朋 (秋田大学医学部 教授)

開催日程 2023年11月3日(金・祝) ～ 5日(日) (予定)

開催地 宮城県仙台市 仙台国際センターほか
ハイブリッド開催 (現地+WEB 開催)

2. 医療薬学公開シンポジウム開催

第89回～第92回医療薬学公開シンポジウムを開催予定

3. フレッシュャーズ・カンファランス開催

第6回フレッシュャーズ・カンファランス

実行委員長 内田 まやこ (同志社女子大学薬学部 教授)

開催日程 2023年6月頃 (予定)

開催地 同志社女子大学・京田辺キャンパス (京都府京田辺市)

4. 医療薬学誌の発行

第 49 巻 1 号～12 号を発行する。（毎月発行）

5. JPHCS 誌の発行

第 9 巻をオープンアクセスジャーナルとして発行する。（随時掲載）

6. 会議開催

- 1 第 15 回定時社員総会 （2023 年 3 月中旬から下旬頃に開催予定）
- 2 第 15 回臨時社員総会 第 33 回日本医療薬学会年会会期中に開催予定
- 3 定例理事会 年間 6 回開催予定

7. 各委員会活動

(1) 総務委員会

- 1 ポスト新型コロナウイルス感染症期における学会運営に関する検討を行う。
- 2 働き方改革・新型コロナウイルスへの感染対策等を念頭にした学会運営・会議等の電子化を引き続き推進する。
- 3 規程等の整備と管理を行う。定款見直しの必要性に係る検討を行う。
- 4 事務局体制の整備・強化を行う。
- 5 年会運営に関する必要な事項を調整・整備する（小委員会）。
- 6 年会長候補者を決定する（小委員会）。
- 7 その他、会の円滑な運営に必要な事項を検討する。

(2) 財務委員会

- 1 本学会の資産を適切に管理する。
- 2 予算の執行状況を定期的に確認する。
- 3 歳出入の適切性を監視する。
- 4 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を推進する。
- 5 年会会計を適切に管理・監督する。
- 6 2022 年度決算報告書を作成する。
- 7 公益社団法人への移行を見据えた 2024 年度予算案を編成する。
- 8 学会運営の活動状況に対応した財務の見直しを提言する。

(3) 企画・シンポジウム委員会

- 1 2023年度に開催される公開シンポジウム運営への助言、支援を行う。
 - 2 本学会の委員会等が企画するプログラムの年会への組み入れを年会長に提言する。
 - 3 2024年度以降の公開シンポジウムの開催のあり方を協議する。
- (4) フレッシュヤーズ活性化委員会
- 1 第6回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催することで、若手・新人の発表の場を提供するとともに、優秀な若手・新人を顕彰する。
 - 2 2024年度以降のフレッシュヤーズ・カンファランスの開催計画を立案する。
 - 3 若手・新人の研究アクティビティの向上策について検討する。
 - 4 今後のフレッシュヤーズ・カンファランスの開催のあり方（WEB開催など）を協議する。
- (5) 広報・出版委員会
- 1 ホームページの更新及び改訂を継続する。
 - ① 会員以外の者（薬学研究者、医療関係者、薬学生や大学院生、その他一般）に向けた情報を発信するため、コンテンツを検討する。
 - ② 新専門薬剤師制度を周知するため、専門薬剤師制度委員会と連携し、コンセプトや魅力などを積極的に発信するコンテンツの作成を検討する。
 - ③ 各種委員会と連携し、成果や活動内容を積極的に発信するコンテンツを作成する。
 - ④ 国際交流委員会及び年会あり方検討委員会と協力して、英文ホームページの更新を検討する。
 - ⑤ 出版図書の普及促進となるコンテンツの作成を検討する。
 - 2 薬学生や大学院生、非会員薬剤師等の加入勧誘を目的とした学会紹介リーフレットを作成し、配布する。冊子としての検討も行う。
 - 3 一斉配信メールなど、会員への広報活動の促進策を検討する。
 - 4 「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の次期改訂版の編集方針を検討する。
- (6) 会員委員会
- 1 正会員及び学生会員数の増加策を検討する。特に薬局薬剤師、薬学生や大学院生、製薬企業所属者、行政関係者の会員増加策に関する検討を行う。
 - 2 会員管理システムの利便性をより高めるための方策を検討する。
- (7) 医療薬学編集委員会
- 1 投稿論文の審査・採否の決定・掲載とより迅速で適切な体制整備を検討する。

- 2 医療薬学誌第 49 巻を発行する。
- 3 投稿論文並びに掲載論文の増加策の検討と学術誌としての質の維持・向上を図る。
- 4 医療薬学誌の紙媒体としての特性を踏まえたコンテンツの再編と、学術誌としての機能に加えて、会員からの情報提供・共有を図る媒体として活用することを検討する。

(8) JPHCS 編集委員会

- 1 JPHCS 誌の論文投稿を随時受け付け、これを審査し、受理された論文を第 9 巻に掲載する。
- 2 JPHCS 誌の認知度向上および投稿数増加に向けた取り組みを検討、実施する。

(9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1 各専門薬剤師制度を統括し、制度の整備及び運営を管理・監督する。
- 2 各専門薬剤師制度の諸規程の新規策定及び見直しを検討する。
- 3 各専門薬剤師制度の研修施設の認定審査を実施する。
- 4 各専門薬剤師制度の連携研修の運営管理を行う。
- 5 下部組織として、次の小委員会及びワーキンググループを置き、その運営を管理・監督する。

① 薬物療法集中講義企画・運営小委員会

- ・ 薬物療法集中講義を企画・運営する。

② 専門薬剤師認定試験小委員会

- ・ 専門薬剤師認定試験の試験問題を作成する。
- ・ 専門薬剤師認定試験の実施と採点を行い、合否判定結果を上申する。

③ 専門薬剤師制度支援システム検討ワーキンググループ

- ・ 認定申請及び審査の円滑な実施に向けた申請・審査システムを構築する。
- ・ 研修施設（連携研修を含む）を管理するシステムを構築する。

(10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

- 1 医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 医療薬学専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 3 医療薬学専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 4 下部組織となる医療薬学専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ・ 医療薬学専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを制定する。
 - ・ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。

(11) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師、研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 薬物療法専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 薬物療法専門薬剤師の育成(症例サマリのまとめ方)と全国に向けた情報発信を行う。
- 4 本学会年会において、症例サマリのまとめ方に係るシンポジウム又はワークショップを企画し開催する。
- 5 下部組織となる薬物療法専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ・ 薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
 - ・ 単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け審査・認定する。

(12) がん専門薬剤師認定委員会

- 1 がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 がん専門薬剤師の養成及び有資格者を対象とした研修会を立案し実施する。
 - ① がん専門薬剤師集中教育講座を日病薬と共催で実施する。(年1回予定)
 - ② がん専門薬剤師アドバンスト研修会を実施する。
 - ③ がん専門薬剤師全体会議を実施する。
 - ④ がん専門薬剤師の申請に係る症例サマリのまとめ方セミナーを実施する。(年3回、地方での開催、他の学会との共催、本学会年会でのシンポジウムの企画を含む)
- 3 がん専門薬剤師認定試験の問題を作成し試験を実施する。
- 4 がん領域の他学会とのコラボレーション企画を検討して実施する。
- 5 がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを改訂する。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1 過渡的認定を含む地域薬学ケア専門薬剤師の認定審査を実施する。
- 2 地域薬学ケア専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 地域薬学ケア専門薬剤師の育成(症例サマリのまとめ方)と全国に向けた情報発信を行う。
- 4 下部組織となる地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ① 本学会年会及び他学会等の学術大会において、症例サマリのまとめ方に係るシンポジウム等を企画し開催する。
 - ② 地域薬学ケア専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
 - ③ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。

(14) 功績賞選考委員会

- 1 功績賞選考規程に基づき、功績賞受賞候補者を選考する。
- 2 振興賞選考規程に基づき、振興賞受賞候補者を選考する。

(15) 学術関連賞選考委員会

- 1 学術に関連する賞として、日本医療薬学会賞、学術賞、奨励賞及び Postdoctoral Award の各受賞候補者を募集し、各賞の選考規程に基づき各受賞候補者を選考する。
- 2 論文賞選考規程に基づき、医療薬学誌第 48 巻および JPHCS 誌第 8 巻の各誌に掲載された論文より、医療薬学誌論文賞および JPHCS 誌論文賞受賞候補論文を選考する。

(16) 医療薬学教育委員会

- 1 薬学生（初年次から）に対して、医療薬学研究や医療薬学会への理解を促す。
 - ① 各薬学部や日本薬学生連盟と協力し、初学年次（1、2 年生）も対象とした本学会の専門薬剤師の姿や医療薬学会年会参加への魅力やメリットを学生に伝える活動（ウェビナーやフレッシュャーカンファレンスとの合同企画など）を計画する。
 - ② ①の活動を通じて、学生への理解を促すための資料作成、各薬学部の現状調査・課題抽出なども行う。

(17) 臨床研究推進委員会

- 1 臨床研究セミナーを企画・開催し、会員の研究活動を推進する。
- 2 本学会年会においてシンポジウムを企画し、臨床系薬学教員等の研究活動の活性化を支援する。
- 3 会員による医療薬学研究（疫学研究等）を支援するための方策について検討する。

(18) 国際交流委員会

- 1 本学会年会において国際シンポジウムを企画・開催するとともに、International Session として一般演題の口頭及びポスター発表を企画する。
- 2 海外研修等助成に関する事業を運営する。
- 3 中国で開催される Forbidden City International Pharmacist Conference へのシンポジウムの推薦をはじめ、会員の国際活動の活性化を図る。

(19) 利益相反マネジメント委員会

- 1 利益相反（COI: Conflict of interest）の申告対象者の利益相反状態を確認する。

- ・「一般社団法人日本医療薬学会 利益相反マネジメント規程」の内容を再確認し、必要に応じて適正化を図る。特に、規程 COI 自己申告対象者、運用方法（申告依頼、提出管理）について見直し要否を検討する。
- 2 申告書類を保管する。
 - ・事務作業の効率化を検討する。特に、電子的な申告、確認、管理等のシステム導入可否について検討する。

(20) 医療薬学学術委員会

- 1 学術活動の活性化に繋がる研究テーマを決定し、研究課題を公募する。
- 2 応募案件から学術小委員会として支援に資する研究課題を選考する。(3件程度)
- 3 2022年度に発足した学術小委員会並びに継続する小委員会を統括するとともに、パキロビッド薬物相互作用マネジメント手引きのメンテナンスを担当する小委員会を支援する。
- 4 下部組織の医療薬学学術小委員会で、以下の事項を実施する。
 - ① 研究計画に沿って研究を実施し、年度毎に研究報告書を作成する。
 - ② 研究最終年度には、年度毎の報告に加えて、研究成果最終報告書を提出する。
 - ③ 本学会年会において、研究成果に関するシンポジウムを企画・開催する。

(21) 将来計画検討委員会

本学会の将来構想に関わる事項として、事業の継続性を担保し本学会の持続的な発展に資する検討を進める。

- 1 本学会が目指す規模や他団体との関係性を議論する。
- 2 代議員選挙制度の改正に係る検討を進める。
- 3 公益社団法人への移行に係る検討を進める。
- 4 WEB開催を活用した年会や各研修会の運営方法や体制の検討を進める。
- 5 専門薬剤師制度のあり方、専門薬剤師の育成から認定資格の継続などのキャリアプランに係る検討を進める。

(22) 製薬企業連携検討委員会

製薬企業・団体との連携を進め、本学会の活動領域を拡張するとともに、製薬領域の活動や考えを医療現場や大学で活動する会員に広めることを検討する。

(23) 情報システム整備委員会

将来計画検討委員会、広報・出版委員会、会員委員会などと連携し、利便性且つ持続的に

活用できる情報システムの枠組みや構築を検討する。

(24) 医療安全対策委員会

医療事故調査支援制度に係る医療事故調査・支援センターの協力学会として、調査依頼案件への協力活動を進める。